

東京に到着するとすぐに、私たちは大企業の立ち並ぶ丸の内のオフィス街に出ました。新日鐵住金の本社ビルは中でも一際大きく、中へ入ると厳重な警備体制がなされており、これから待ち受けるディレクトフォースがより一層楽しみになったように感じました。私はこのディレクトフォースに行くまでこの新日鐵住金という会社のことはほとんど知りませんでした。しかし、お話を伺う中で今本社で働いている社員の方で就職試験を受けるまでは名前を聞いたことすらなかったという方もいらっしゃったので少し安心しました。

2013年の国別粗鋼生産量は日本が中国に次いで世界第二位であり、同じく2013年に新日鐵住金は鉄鋼メーカー別粗鋼生産量が世界第二位であるということを知り、新日鐵住金は日本の鉄鋼メーカーを支え、日本の経済の基盤となる重要な会社であるということがよく分かりました。私の中での「大企業」には本社と現場が大きく離れているイメージがありましたが、今回の訪問で今本社で働いている社員の方々の中には以前現場に近いところで働いていた方もいらっしゃるようだったので少し自分の中でのイメージが変わりました。

また今回は、4人の社員の方からそれぞれの仕事の内容についても教えていただきました。まず営業の業務は、受注獲得に向けてお客さんのニーズがどこにあるのかを追求することであり、コスト競争力や納期対応力が問われること、また時には鉄鋼の加工方法に至るまで提案することがあるそうです。法務部門では投資案件での法的サポートや買収などに関するM&A、契約書の作成や法律相談の対応、訴訟対応、クレーム対応の法的支援など、法律に関する知識を使って幅広く対応していることが分かりました。建材事業部は建設(土木、建築)に関わる鉄の開発や鋼矢板の新商品開発、インフラに関わる鉄の提案、拡販や鉄(鋼矢板)の認知活動、また東北の震災復興への取り組みとして避難タワーや支援住宅の建設を行われたそうです。最後に広報の業務は会社の仕事を外の人に伝えることであり、会社の企業価値や株価を最大限に高める戦略的な広報活動が求められる仕事であるそうです。2万4000人の全ての社員が広報担当であることが理想であるとも話していらっしゃいました。また広報部は「会社の顔」とされているため、報道対応や出版物の企画や制作もされているそうです。このように企業の中での仕事は様々で、それぞれの部門の一つ一つの仕事が経営にとって重要な役割をなしていることがよく分かりました。

その後のグループワークでは、「今、力を入れて取り組んでいることがこれから社会に出ていく上でどのように活かしていけそうか」というテーマで意見を出し合いました。私のグループでは勉強と部活動の両立に力を入れているという人が多く、それは将来時間を上手く使うことができるようになるための練習のようなものなのではないかという意見にまとまりました。他にも、人とのコミュニケーションをとれるよう心掛けることや集中力を身に着けることなど多くの意見を出し合い、交換することができました。

ディレクトフォースが無事終わり、次は順天堂大学を目指して丸の内線に乗りました。御茶ノ水駅で降りるとすぐに順天堂大学の建物が目に飛び込んできました。今回お会いした順天堂大学医学部心臓血管外科の天野篤教授は2012年2月に東京大学医学部附属病院で行われた天皇陛下の心臓手術(冠動脈バイパス手術)を執刀された方で、心臓を動かした状態で行うオフポンプ手術の第一人者であります。これまでに執刀された手術は6500例を超え、成功率は98%を超えます。今回、企業大学訪問として天野教授に訪問を依頼させて頂いたとき、私を含め班員の多くは無理だろうと半ば諦めていたのですが、天野教授の秘書である河瀬さんからの快いご返事をいただいたとき、皆で手を取り合って喜んだことは今でも鮮明に思い出すことができます。

天野教授にお会いする直前、班員で質問事項の内容や流れの確認を行いました。見ると、誰もが緊張の面持ちで落ち着かない様子だったので少し心配でした。

部屋に通されると天野教授がすでにいらっしゃり、私たちを迎えてくださりました。天野教授からおおよそ半径2メートルの距離の中に全員が座れるくらい近くでお話を伺いました。まず初めに仙台二高について紹介しようとしたところ、定期的に仙台にいらっしゃって仙台厚生病院でお仕事されているせいか、仙台に来たときは必ず

二高の前をタクシーで通るのだとおっしゃられたので驚きました。それに関連して天野教授の母校である埼玉県立浦和高校についてやその当時の生活についても語ってくださいました。その後私たちはそれぞれ順に天野教授に質問をしていきました。私はまず、どのようにして外科医としての技術を身に付け、磨いてきたのかを質問しました。すると先生は、知識と経験を詰め込んで手術の際に反射的に対応できる程度にまで自分の体に技術を染み込ませることが重要だと教えてくださいました。また、天野教授は冠動脈のバイパス手術を行う際に使う大腿部の血管をできるだけ長く切り出すことを心掛けていて、手術で使わなかった余った分の血管を使って手術の練習をしているそうです。最近手術のトレーニングキットもあるそうですが、やはり人間の実物の血管でトレーニングしたほうが役に立つとおっしゃっておいりました。また、これからの医学に期待することは？という質問を試してみたところ、先生の答えは、治らない病気が治るようになることと保険制度のなかで納得のいく治療ができるようになること、医療が必ずしも万全であるわけではないことを医学教育の中で教えられるようにすること、また現在の医学の考え方を切り替えて、確実に救える命を救おうとする、予防医学の考え方を広めていきたいと思うと述べてくださいました。

最後に天野教授は、医師を志す高校生には再現性のある行動を心掛け、弱者に気配りをし、独善的にならず自分に自信を持ってもらいたいとおっしゃっておいりました。勉強が出来るだけ、人間性に優れているだけでは人として成長することができないので、総合的に自分を客観視してみて、バランスの良い自分を鍛えあげることが大切だと教えてくださいました。

天野教授と当初約束していたのは1時間でしたが、それより30分も長く時間をとってください、とても充実した時間を過ごさせていただきました。最後に私が持参した天野教授の著書「熱く生きる」に先生のサインを頂きました。「一途一心」という言葉が添えられていました。それから名残惜しさも残るなか、私たちは順天堂大学医学部附属病院を後にしました。

今回の奇跡的ともいえる天野教授との面会は私にとって、他の班員にとっても一生忘れることのできない思い出になりました。初めはダメ元での交渉のつもりが、まさか本当にお会いできることになり、高校生の私たちにあんなにも熱く語ってくださることになるとは夢にも思っていはいませんでした。今回の貴重な経験は、企業大学訪問を企画してくださった先生方と言葉巧みに交渉してくれた班長、それからともに意見を出し合い協力し合ってきた班員たちがいたから成し遂げられたのだと思います。私はこれからの生活で、天野教授がおっしゃっていたように自分に自信を持ち、人間としてバランスの良い自分を鍛え上げてゆきたいと思います。